



全委員長会議

帯西は、火曜日の朝の活動は、「係・委員会活動」の時間になっています。委員会活動については、「わくわく通信9号」で紹介しました。一方で係活動も子供の自主性を伸ばして、責任感をもたせていくために、大切な取組です。子どもたちの自由な発想で考え、計画し、実行したことが学級のためになり、学級を豊かにします。



そして、月に一度は火曜日の朝の時間に、「全委員長会議」を設定し、各委員長が校長室に集まります。ここでは、各委員会が今後に行う予定や計画について出し合ったり、活動後に振り返りをしたり、改善点を話し合ったりする時間になります。今日が第一回の全委員長会議となったため、そのオリエンテーション的な活動となりました。私の方からも、各委員会は「わくわく」する学校づくりのために「4つの心」を意識した活動にして欲しいこと、満点を取ろうとするのではなく、そのときにできるMAXの力を出して欲しいことを伝えました。今後も、委員長の皆さんを温かく見守り、期待し、自分たちで考え判断して活動できるよう支援していこうと思っています。

朝の「係・委員会活動」の時間を設定することで、子供たちはその時間を各係・委員会で協力して活動に取り組み、見通しをもって活動できるようになります。そして、自分の活動がみんなのためになっているという自己有用感を醸成し、次の活動への意欲につながっているのです。

「八百屋」の名前の秘密

子供の頃からおつかいを頼まれて、いつも不思議に思っていたことがあります。それは、野菜を売っているお店が「やお」だったことです。魚を売る店なら魚屋、肉を売る店なら肉屋、野菜や果物を売る店なら野菜屋や果物屋でなく、なぜ八百屋なのかと思っていました。「やお」を売る?とはどういうことなのでしょう。



この不思議を調べてみると、「お」は古文の数表現で「100」を表します。そして、「500」を「いお」、「800」を「やお」などと言っていました。さらに、「いお」や「やお」は、数が多いことを表すようになり、五百枝(いおえ):無数の枝、八百日(やおび):たくさんの日々などと表し、八百屋(やおや):たくさんの物を売る店と言うようになったそうです。江戸時代に、店での野菜類の販売がはじまり、その頃は野菜類以外の干物、海草、木の实、草の根なども売られていたと言います。このようにたくさんの物を売っていた八百屋ですが、さらに多くの物を売っていたお店を、万事屋(よろずや)と呼んでいました。万は、1万を表します。食料品や雑貨など生活に必要な物を何でも打っていました。これは、現代のコンビニエンスストアに当たります。さらにたくさんの数を「八百万(やおよろず)」と表し、「八百万の神」とは、日本で古くから親しまれてきた信仰に関係がある言葉です。自然界に存在する全ての物に神が宿っていると考えられてきた日本では、木や空、河など様々な所にそれぞれ神様が居ることになります。

八百屋の成り立ちや由来を知ることによって、日本で古くから伝えられてきた考え方や風習を知るきっかけとなるので、言葉の背景を調べてみるのもおすすめです。